

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

|               |   |
|---------------|---|
| 事業所番号         | 0470201435                              |
| 法人名           | 株式会社ケアサービス 希慈                           |
| 事業所名          | グループホーム 希慈                              |
| 所在地<br>(電話番号) | 宮城県石巻市渡波字浜曾根山20番地<br>(電 話) 0225-24-3380 |
| 評価機関名         | 特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会      |
| 所在地           | 仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階              |
| 訪問調査日         | 平成 20 年 2 月 12 日                        |

## 【情報提供票より】20年 1 月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

|                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 開設年月日                    | 平成 17 年 12 月 20 日 |
| ユニット数                    | 1 ユニット            |
| 職員数                      | 9人                |
| 利用定員数計                   | 9 人               |
| 常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.8人 |                   |

### (2) 建物概要

|      |          |                |
|------|----------|----------------|
| 建物形態 | 併設/○単独   | ○新築/改築         |
| 建物構造 | 平屋 木造 造り | 1 階建ての 階 ~ 階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |          |                |       |
|---------------------|----------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額)            | 36,000 円 | その他の経費(月額)     | 円     |
| 敷 金                 | 有( 円)    | ○ 無            |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)    | 有りの場合<br>償却の有無 | 有/無   |
| 食材料費                | 朝食       | 円              | 昼食 円  |
|                     | 夕食       | 円              | おやつ 円 |
|                     | または1日当たり | 1,200          | 円     |

### (4) 利用者の概要(2月12日現在)

|       |           |         |         |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名       | 男性 3 名  | 女性 6 名  |
| 要介護1  | 3 名       | 要介護2    | 4 名     |
| 要介護3  | 0 名       | 要介護4    | 2 名     |
| 要介護5  | 0 名       | 要支援2    | 0 名     |
| 年齢    | 平均 73.6 歳 | 最低 70 歳 | 最高 93 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 協力医療機関名 | こだまホスピタル・さくらんぼ歯科クリニック・かいほく歯科クリニック |
|---------|-----------------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームに着くと以前入居され、現在は新しく立ち上げたグループホームに移られた入居者が職員と共に車で帰るところで賑やかに見送られ、自動ドアの玄関に入ると、入居者の和やかな笑い声が聞こえてきた。天井が高くゆったりとした居間からは、交通量の多い幹線道路でもあるが中学生・女子高生の通学姿が、後ろを見れば葉を落とした雑木林が季節を感じさせ、居心地のよい空間となっている。代表の福祉への思いと、「介護させて頂いております」というホームの理念を職員が理解し、「入居者から学ぶことがたくさんあり、そして元気を貰い、小さな希望を分かちあいたい」と実践に活かされていることを十分感じ取ることができた。開設から2年、入居者と家族の繋がり、地域の理解・協力がまだ希薄であることが課題である。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |   |  |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の主な改善項目は、①運営理念の啓発②介護計画の職員間での共有と家族の意見の反映③金銭管理の支援 ④市町村との関わり⑤地域への還元などであったが、ほとんど改善されている。しかし、家族の意見の反映、運営理念の啓発は行政の力も借りながら、民生委員・区長の協力を得られるよう働きかけをしているが、理解を得られるまでにはなっていない。</p>  |
|      | ② | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>意識向上のため職員全員に自己評価してもらい、設問の意味が分からないことは一つひとつ話し合い、自分たちが行っているケアを振り返り、気づくことも多かったという。あらためて他の職員の考えも聞くことができたことは、これを機会に再スタートという気持ちであると、職員のヒヤリングで聴かれた。</p>  |
| 重点項目 | ③ | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>「運営推進会議設置要綱」を作成し、「地域情報交換会」として2ヶ月に1度開催している。メンバーは入居者と家族代表・地域包括支援センター職員・渡波中学校校長となっており、ホームの様子や指導監査の結果報告、それぞれの立場からの意見や感想が述べられている。地域の民生委員・区長の参加を地域包括支援センターからも声がけを行っているが、運営推進会議への理解が深まらず、参加もまだ得られないが、引き続き声がけ等の協力をお願いしたい。</p> |
|      | ④ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会は少なく、苦情や要望もほとんどない。職員はいろいろ努力され、入居者が家族に手紙を出してみたり、行事への参加を呼びかけるものの反応は少ないが、これからも根気よく声をかけ続けていくことを期待したい。</p>   |
| 重点項目 | ④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣の渡波中学校の授業の一環として交流を持ったことは、高齢者と触れ合う時間の大切さを学校側が認識したという。運動会などの行事への招待や、車椅子での散歩の途中のちょっとしたお手伝いなど、日常的になってきている。それから地域の行事に参加したときには声をかけてくれるなど関係ができてつつあるが、災害のときの地域との連携を考えれば地区の役員の理解が大きいと思われるので、行政の力も借りて地域密着型となったグループホームの役割を理解して貰うことを期待したい。</p>     |

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|-----------------------|----|---|---|------|--|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |   |   |      |  |
| 1. 理念と共有              |    |   |   |      |  |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 理念は常に目につくところに掲示されている。運営規程の中で地域との連携も明示されているが、改めて地域密着型サービスの意義を考えた理念についての話し合いは行われていない。   | ○    | 「地域との関係強化」「地域での生活の継続」を支えていく地域密着型サービスとなったグループホームの役割を反映した理念を作りあげ、ホームの状況の変化に応じた見直しも行っていただきたい。   |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 常に話し合い、「介護させていただいております」という理念が実践に活かされていることは、職員のヒヤリングからも十分感じとることができた。   |      |  |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |   |      |  |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 地域のお祭りへの参加、隣の渡波中学校との交流、踊りやメイクの地域のボランティアの訪問など交流を持っている。今後地域の人が気軽に寄ってもらえるように、更に努力していきたいとのことである。  |      |  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |   |      |  |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 職員一人ひとりに自己評価をして貰い、設問が分かりにくく難しく思うところも一つひとつ具体的に分かるようミーティングで話し合った。昨年の改善点も含め、再スタートという気持ちで取り組んだ。   |      |  |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 「運営推進会議設置要綱」を作成し、「地域情報交換会」という名称で2ヶ月に1回の開催となっている。入居者と家族代表、地域包括支援センター職員、渡波中学校長のメンバー構成になっているが、地区の区長・民生委員の参加を地域包括支援センターからも働きかけているが、運営推進会議の目的を理解していただくまでにはなっておらず、協力は得られていない。 | ○    | 運営推進会議の目的を理解していただくために、地域包括支援センターは福祉関係の事業所の説明会を開き、改めて理解を求めめる機会を設けることも考慮している。是非実現され、地域の方の参加を得るとともに率直な意見交換の場となり、サービスの向上に繋がってゆくことを期待したい。 |

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 市の担当者から今回のサービス評価に同行できない旨ファックスがあった。包括支援センターからも、行事を行う時の相談や実習生の受け入れの要請など、サービスの向上に共に取り組んでいる。                              |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |   |      |                                  |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 日頃の様子を来訪時伝えたり、毎月職員の手紙と写真を添えて報告している。金銭管理についても月に1度、「小遣い使用明細」を確認してもらい、サインをいただいている。                                       |      |                                  |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | ホームとしては要望や苦情など言ってもらえるよう積極的に働きかけているが、家族の面会も行事への参加も少ない。職員の働きかけで家族に手紙を出したりしているが反応は少ない。それから、第三者委員の相談・苦情受け付け窓口も設置していただきたい。 |      |                                  |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 馴染みの関係の大切さを十分理解した上で、もう1箇所立ち上げたホームへの異動と、個人的な事情による退職以外の職員の交替は無い。入居者・家族にも報告がなされ、理解を得ている。                                 |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |   |      |                                  |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 研修は常勤・非常勤を問わず、希望により受講できるよう配慮している。宮城県グループホーム連絡協議会のブロック会議には必ず参加し、研修後はミーティングで報告し共有を図っている。                                |      |                                  |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 他のグループホームの見学や交流会に参加し情報を得るなど、実践的な交流になっている。   |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| <b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |    |   |   |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |   |   |      |                                  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ホームを見学してもらったり、徐々に馴染めるよう本人の生活のペースを大切に、帰宅願望のあった入居者も現在は納得して生活している。ホームに来て日が浅い入居者が、「ここはいい所ですよ」と話してくれた。                                   |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |   |   |      |                                  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 季節の行事など入居者から教わるが多く、なにげなく話されたことを大切に、ケアにいかしている。得意分野で力を発揮された時など感謝の言葉を述べ、利用者からも「気をつけてね」など、いたわりの言葉をかけられることもある。                           |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |   |   |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |   |   |      |                                  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 入浴のときなどなにげなく話してくれることで入居者の生活歴を垣間見ることもあり、本人の思いを知ることもある。職員のヒヤリングで「心と心で」という言葉も聞かれ、職員の都合でケアにあたるのではなく、入居者のペースで生活を支えている。                   |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |   |   |      |                                  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している         | アセスメントに基づき、本人・家族の意見を反映させた具体的な介護計画を作成し、家族と話し合いを行った上で同意を得て、写しを渡している。  |      |                                  |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している     | 基本的に3ヶ月に一度評価を行っての見直しとなっているが、毎月行うケアカンファレンス会議において、季節の変わり目に体調の変化がある方、医療的に変化があった時など見直しを行い、家族の同意も得ている。入居して日が浅い方は実践的な対応ができるよう毎月見直しを行っている。 |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|------------------------------------|----|---|---|------|---|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |   |   |      |   |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 受診の際には職員が付き添い、買い物の要望があるときは、近隣のスーパーに車で出かけたり、その時の状況に合わせた対応がなされている。  |      |   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |   |      |   |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | それぞれ希望するかかりつけ医の受診となっている。薬のみ家族が貰いに行く時は、職員が入居者の状態を説明するなど情報を提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。   |      |   |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 医療行為が伴わない状態であればホームでの看取りは可能であるが、医療行為が必要となった場合は退去となることを、家族には説明している。今後家族の状況の変化などにも対応できるよう、くり返し話し合い、入居者家族が安心して利用できるようにしていただきたい。 | ○    | 重度化に伴う意思確認書を作成し、ホームとしての対応方針を家族・医療それぞれの立場で話し合い、統一を図っていただきたい。状況の変化に伴う利用者・家族の思いの変化にも対応できるよう、繰り返し話し合うことも大切かと思われる。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |   |   |      |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |   |   |      |   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |    |   |   |      |   |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 個人情報の取り扱いについては重要事項説明書に記載され、同意を得ている。朝・夕の引継ぎの際に個人名を読み上げないなど配慮し、プライドを傷つけないよう言葉がけなどにも注意を払っている。                                  |      |   |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 生活のリズムは本人なりのペースで行えるよう、「普通の生活」を大切に、常に意識してケアにあたっている。その時の思いを尊重し、一緒にできることにはすぐ対応している。  |      |   |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |  |      |                                  |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 買い物、食事の準備や後片付けは、入居者の体調をみながら職員と共に行っている。食事の前の嚥下体操は職員の元気な声かけのもと行われ、スムーズに、和やかな食卓になっていくように感じられた。  |      |                                  |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 入浴は午後から夕食前となっており、一人ひとりの希望に沿えるよう支援をしている。しかし夜間の入浴支援はしておらず、就寝前に希望する方には、足浴で対応している。職員もできるだけ希望をかなえてあげたいとの思いもあるので、職員のローテーションのこともあるが、是非実現に向けて努力していただきたい。 |      |                                  |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |  |      |                                  |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 掃除・日めくりをめくる人・畑仕事・畑の野菜の食べごろを教えてくれる人など、それぞれの役割がある。かつて美容師をしていた方も、忘れかけてはいるが着物の着付けなどお願いしたり、持てる力を発揮できるケアを心がけている。                                       |      |                                  |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                    | 散歩・買い物・ドライブ・隣の中学校の校庭での見学など、日常的に外出することを心がけている。「馴染みの店に行ってみたい」などの希望はわずかであるが、入居者の希望に応じ買い物に付き添うなど、個別の支援をおこなっている。                                      |      |                                  |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |  |      |                                  |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 玄関は自動ドアであり、いつでも自由に入出入りができる。表通りは車の往来が頻繁であるが、チャイムも取り付けられ出入りがすぐ分かるようになっている。   |      |                                  |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | マニュアルを作成し、年3回消防の協力も得て、地震・火災を想定した避難訓練を行っている。地域の協力はまだ得られていないので、今後の課題であり、非常用の食品・備品を準備しておくことも大切かと思われる。   |      |                                  |

| 外部                                | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                   |
|-----------------------------------|----|---|--|------|--|
| <b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b> |    |   |  |      |  |
| 28                                | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 食事・水分の摂取量はチェック表に記録、体重も2週間に1度測定し、健康管理に努めている。献立は学校給食の献立を参考にしているとのことであるが、栄養の専門的な観点からの指導・助言は受けていない。  | ○    | 体重管理も行われ、水分の摂取量なども常に注意を払っているが、定期的に、栄養士や保健師の専門的な立場から点検して貰うようお願いしたい。 |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>    |    |   |  |      |  |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>            |    |   |  |      |  |
| 29                                | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ゆったりとした広さの居間は台所との仕切りは無く、テレビの前に置かれたソファ、少し人目を避けることのできる畳のコーナーなど、入居者にとって居心地よく過ごせる場所となっている。ホームの後ろの葉を落とした雑木林も、居ながらにして四季を感じることができ、入居者の方は思い思いに寛いで居られた。 |      |  |
| 30                                | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 使い慣れたものがたくさん持ち込まれているわけではないが、見せていただいた部屋の方が一生懸命説明して下さり、自分の部屋となっていると感じた。  |      |  |